

主体性を育む アクティブ・ラーニング

2025年9月2日

1.

- おもしろいなあ、いいなあ、と思ったところを、3つほどメモしてみてください。
- 4人～6人
 - どんな気づきがあったか、伝えあってください。
 - はじめまして。ご挨拶から。
 - 発表用に、協力して、気づきをまとめておいてください。
 - 発表者の方も、グループの中で決めておいてください。

2.

- ① 「たいけいくんがきたからうごいたよ」という声
 - **動き出したポイントを、子どもたちがわかっている。**
 - あきとの力、みんなの力、たいけいの力
- ② リヤカーを子どもたちだけで。
 - その気持ちを尊重して、離れた位置から（**ヒト環境**）。
 - **リヤカー、でこぼこみち**という手を出したくなる環境（**物的環境**）でも。
 - 子どもたちだけで難しいことを行う。
- たんじせんせい
- ③ 大人が手を出さない。子どもだけで、あきらめることなく、**考えて、力を合わせる。**
- ④ 「**ちからをかけて**」という言葉に、耳を傾けて、集まってくる。
- しみずせんせい
- ⑤ 「へんしんした」**戦隊ものになりきった。**★あきとくん
- ⑥ 大人の距離感：**見守る。介入しすぎない。**

3.

- ① 「たいけいくんがきたからうごいたよ」という声
 - **動き出したポイントを、子どもたちがわかっている。**
 - あきとの力、みんなの力、たいけいの力
- ③ 大人が手を出さない。子どもだけで、あきらめることなく、**考えて、力を合わせる。**
- ⑤ 「へんしんした」**戦隊ものになりきった。**★あきとくん
- ⑥ 大人の距離感：**見守る。介入しすぎない。**
- アクティブ・ラーニングとは何か？
 - 主体的で、対話的で、深い学び。

4.

- アクティブ・ラーニングとは何か？
 - 主体的で、対話的で、深い学び。
- 深い学び
 - 学習 1 教えられた正しいやり方
 - 学習 2 その子たちなりのやり方
 - 学習 3 新しいやり方を編み出しながら
- 失敗しながら、試行錯誤しながら、獲得した知識・技術の方が定着する。

5.

- 学びのプロセスには5つの段階がある。
 - 1. やりたい！
 - 2. やりたいけど、できない。できないけど、やりたい。
 - そんな時、子どもたちは、必死になって「やり方」を考える。
 - そこから「新しいやり方（深い学び）」が生まれてくる。
 - 3. やった！できた！
 - 4. いつでも、どこでも、やりこなせる。
 - 5. できるようになったことが、周囲に波及する。
- ★ 「正しいやり方」よりも「その子なりのやり方」
- ★ 「やりたい！」に火をつける。
- ★ 「やった！できた！」を急がない。「やりたいけど、できない」その失敗や試行錯誤を見守る。
- 休憩明け：★「やりたい！」に火をつけるには
 - ★「できない自分」を安心してさらけ出せるには。

6.

- 休憩明け：
 - ★「やりたい！」に火をつけるには
 - ★「できない自分」を安心してさらけ出せるには。
- 自信型：やりたいから、できないけど、やる。
 - 不安型：やりたいけど、できないから、やらない。
- ④ 「**ちからをかして**」という言葉に、耳を傾けて、集まってくる。
- **欲求表出（ことば、泣きなど）に、個別に、応答する。**

7.

- 欲求表出（ことば、泣きなど）に、個別に、応答する。
- 第一期
 - 信頼：① 応答してくれる人だ。という**相手に対する信頼**。
 - ② 応答してもらえる大事な存在なんだ。という**自分に対する信頼**。
 - 応答：離れても、戻ってくる。
 - **助けてといえ、助けてくれる。**

8.

- 子どもからの「できないよ。助けてよ。」という表出に、どう応答するか。
 - 1. せんせいがやってあげる。
 - ★ 先生との信頼関係（第一期）
 - 2. ともだちにやってもらう。
 - ★ 子ども同士の信頼関係（第一期）
 - 3. じぶんでやってごらん
 - ★ 自立を促す（第二期）
- ★ 「1. 」と「2. 」に時間をかけていい。
- ★ 「3. 」は勝手に、始める。

9.

- 後ほど、深掘りするかもしれないこと
 - いくつになっても「助けてよ」が抜けない（試し行動が抜けない）
- 「できない自分」を隠そうとする。
 - 「できること」だけやろうとする。
- 不信：「できないこと」はダメなことなんだ。

10.

- 信頼 と 不信 の せめぎ合い（やじろべえ）を生きる。
 - 信頼 > 不信
 - 第二期：イヤイヤ期
- グループで
 - ① 今日の内容で、自分にとってポイントだと（大事だと）思ったこと。
 - ② 質問（困っていること）
 - イヤイヤ期にどうすれば
 - 「できない」をさらけ出せない子（不安型：できないから、やらない。という子）
 - 主体性ってなんですか？わがままと何が違うんですか？
 - などなど
- ★発表のために、整理しておいていただけると助かります。

11.

- グループで
 - ① 今日の内容で、自分にとってポイントだと（大事だと）思ったこと。
 - ② 質問（困っていること）
 - イヤイヤ期にどうすれば
 - 「できない」をさらけ出せない子（不安型：できないから、やらない。という子）
 - 主体性ってなんですか？わがままと何が違うんですか？
 - などなど
- ★発表のために、整理しておいていただけると助かります。

12.

- 語り合いと休憩を兼ねた時間を
 - 3時40分まで
 - その後は、4時30分まで休みなしで行います。
- 質問1：ともしたせんせい
 - 1歳の担任：
 - ①先生との信頼、②友だちとの信頼関係
 - なかなか②に進まない。
 - 「試し行動」が抜けない子
 - 月齢が高い子；③じぶんでやってごらん。
 - ②を抜かして、③に行ってもいいのか？

1 3.

- 質問 1 : ともしたせんせい
 - 1歳の担任：
 - ①先生との信頼、②友だちとの信頼関係
 - なかなか②に進まない。
 - 「試し行動」が抜けない子
 - 月齢が高い子；③じぶんでやってごらん。
 - ②を抜かして、③に行ってもいいのか？
- 回答 2 :
 - 第一期：応答してもらえるという信頼の感覚
 - 第二期：信頼を土台にした自己発揮、自己主張
 - 相手に応答しながら自己発揮
- ある程度、自立した子たちが「助け合い」をするために
 - ある程度の「高さ」「重さ」「大きさ」のあるモノを活動の中に取り入れる。
 - 手作りの滑り台を設営するときに、保育者が

13.

- 回答 2 :
 - 第一期：応答してもらえるという信頼の感覚
 - 第二期：信頼を土台にした自己発揮、自己主張
 - 相手に応答しながら自己発揮
- ある程度、自立した子たちが「助け合い」をするために
 - ある程度の「高さ」「重さ」「大きさ」のあるモノを活動の中に取り入れる。
 - 手作りの滑り台を設営するときに、保育者が
- 16人：4人が「助けて」を言う。
 - その表出に、誰かが応答する。
 - その姿を、不信が強い子の前で繰り広げる。
 - その姿を見ると「ここは、人を信じていい場所なんだ」ということが伝わっていく。

14.

- 回答2（つづき）
 - 第二期
 - ①「じぶんで！」「やだ！」
 - ★自分のことは自分で決めたい気持ち
 - 自己発揮、自己主張、自己決定
 - ②「みてて！みてて！」
 - ★周囲の**期待**に応えたい気持ち。
 - 期待に応える姿に視線を向けたい気持ち。
 - 一人前扱いしてほしい気持ち。
 - ★期待を伝える「出したらしまってほしいよ」
 - 一緒につくりたい**未来**を伝える。
 - 禁止を伝える「出さないでよ」
 - **過去**を責める。
 - ③「みないで！」
 - ★ **期待**ばかりでつらいよ。**視線**を向けないでよ。

- 第三期：
 - 自分たちの決まり（順番、役割）を、自分たちで作
りながら、自分たちのイメージする世界を実現して
いく。
 - 自己発揮は食い違うときもある。
 - その食い違いから「きらい！」ってなって、
別々に遊ぶってこともある。
 - 「やっぱり、いっしょにやりたいな。さみし
いもん」
 - 「じゃあ、じゅんばんね」

- 「やりたい！」に火がつくような環境構成
 - 周辺参加を許す。
 - その子なりの参加の仕方を許す。
- 複数の活動を、同時進行させておく
 - ダイナミックな活動 と こじんまりとした活動
 - その活動の中に、使いこなしている子もいれば、そうでない子もいる。
 - それぞれが、自分の距離感で参加できるように。